(2) 授業２（スピーチ１）

２人組になり、お互いにあいさつをした後１人がスピーチを開始。スピーチ終了後、聞き手に必ず質問をさせ、Ｑ＆Ａを行った。答える時は、プラスワンで答えさせた。役割を交代して、同じように活動させた。あらかじめ,【資料２】のような表現集を渡しておき、スピーチやＱ＆Ａの際のコミュニケーションを促す表現として活用させた。ペアを交代して同じように活動させ、２組目の活動が終わった後、【資料３】を用いて自己評価させた。その際、次時のスピーチのために、教師が練習のポイントをモデルとして具体的に例示し、自分の改善点を意識させ、家庭での練習の参考にさせた。

【資料２】

会話をスムーズにする表現
- え？何と言ったんですか？
  ＊Pardon?(　　) I beg your pardon?
- もっとゆっくり話して（ください)。
  ＊(Please) speak more slowly.
- ええと。そうですね。　＊ Well～ ／Let me see.
- そのとおり！　＊ That's right. ／ That's true.

【資料３】

◇　取り組みについて振り返ってみよう。
(1) スピーチの前（１、２、３時間目）
- 積極的に活動した。
- 練習ポイントは確認した。
  (Good、O.K.、Poorで評価)

(2) スピーチをして（２、３時間目）
- アイコンタクトがとれた。
- 話の流れに応じて、適切な表現が使えた。
- 聞き手に質問することができた。

(3) スピーチを聞いて（２、３時間目）
- アイコンタクトをとり相づちを打って聞いた。
- 話し手の質問にプラスワンで答えられた。

(3) 授業３（スピーチ２）

ペアを換えて、２時間目と同じ要領で、スピーチと自己評価をさせた。必要に応じて、次の時間（４時間目）に練習のポイントを取り出して練習させた。

(4) 全体の流れ

以上の(1)～(3)の活動を１つのサイクルとし、これを５～６サイクル行った。３サイクル終了後、活動について再検討し、スピーチの質を高めるために、各自の目標を持たせて取り組ませることにした。

3　検証の結果と考察

(1) 積極性を養う面の変容

アンケートにより、生徒の意識調査を行った。その結果、「話すことができる」とした生徒が活動前より約１割増加し、約７割になった。また、89％の生徒が「以前よりうまく話せるようになった」としている。

自己評価では、自分をよく振り返ることができた生徒が41％、残り59％はまあまあ振り返ることができた生徒であった。また、自己評価をしてやる気につながった生徒が47％、まあまあつながった生徒が40％となっている。

次に、活動の中で対話が途切れたときなど、何とかしてコミュニケーションを図ろうとする生徒が増えた。理由として、モデルや表現集の効果を挙げている生徒が約60％いることから、それらが「話すこと」のストラテジーを身に付けるのに有効であったことが分かる。

以上の点から、Mini-Speech活動によって、「話す」活動に対してより積極的に取り組み、コミュニケーションが図れた喜びを感じ、「話すこと」に自信がついた生徒が多いことが分かる。次は、活動後の生徒の感想である。

【資料４】

- 自分の分かる範囲で言いたいことを伝えることができた。質問がたくさん出てきて楽しくスピーチができた。

しかし、以下のような改善点も指摘された。

【資料５】

- スピーチの点数をつけるのがやりにくかった。
- 何度もやるとトピックがなくなる。
- 準備の時間、スピーチの時間が少なかった。

(2) 能力を高める面の変容

①　「話すこと」を４つの観点に分け、そ